

# 東京芸術劇場 東京のはら表現部

## 第1期（2019年度）の活動

第1期生のメンバーは、高校生から20代を中心とするダンサー13名とファシリテーション実習生9名、合計22名。ダンサーにもファシリテーション実習生にも、さまざまな障害のある人となない人が混在。ダンスや指導の経験も、さまざまでした。

4月にメンバーを公募し、6月に活動を開始。月に一度、日曜日午後に、東京芸術劇場または全国障害者福祉センター戸山サンライズに集まり、ワークショップを開催しました。多様ななかに一体感の満ちた身体表現をみなで創造し、そのプロセスを一緒に楽しみました。

9回目のワークショップとなる2020年2月2日には、東京芸術劇場で、100名以上の観客を迎えて、『オープンのはら season 1』を開催。映像で活動の様子を紹介し、一人一人のメンバーが思いや感想を語った後、ロワー広場でショーケースを行いました。「てあわせ」や新聞紙を使ったワークショップのデモンストレーションに続き、作品「まど」と「そら」を披露。最後はお客様も誘って「てあわせ」で締めくくりました。地下1階にあり、地下通路から東京芸術劇場への入り口に位置するロワー広場は、5階まで吹き抜けの構造です。高い天井のもと、風や光を感じて気持ち良く踊るダンサーたちを、1階や2階からもたくさんのお客様が鑑賞してくださいました。



『オープンのはら season 1』 撮影：中澤佑介

また、都内の公立小学校で、全校生徒約450名を対象とするアウトリーチ・ワークショップを、ファシリテーション実習生を中心に企画し実施しました。